

ネパールの若者に 日本の建設技術を

県内での 就労支援

日本ステンレス工業(本部:大月市) 石岡博実会長に聞く

日本ステンレス工業(本部:大月市)の石岡博実代表取締役会長は、ネパールと太いパイプを持つ。「現地でネパール人に日本語と建築用語を覚えてもらい、県内の建設関連業者にネパールの若者を就労させたい」と希望している。「なぜ、ネパールを支援するのか。同国の現状などを石岡会長に聞いた。



石岡博実会長

「ネパールを支援する理由は、貸したいとの思いから、惜しみない支援活動に取り組んだ。」

石岡 当社が拠点の和太鼓チーム「紅富士太鼓」を通して交流が長年続いている。

2015年4月に発生したネパール地震では、死者約9000人という大きな被害を受けた。復興に向けて最大限に力を

「ネパール大使館のバツタライ大使から感謝状をいただいた。」

「ネパールとの最近の交流は。」

石岡 ことし7月中旬旬、中学生による「第12次ネパール交流団」、8月上旬にNPOグラウン

ドワーク三島と共同で「第2回富士山エベレスト若者環境交流事業」の一環として、ネパールの大学生による訪問団も来県した。後藤知事や石井大月市長を親善訪問し、幼稚園や小、中学校と交流した。

若者環境交流事業では、都留文科大と「富士山とネパールの環境」について討論会を行い、富士スバルライン沿いで富士山清掃を実施した。ネパールとの縁はさらに広がり、富士吉田市にある、水を生産している会社から、ネパールでの水質調査依頼が昨年にあった。エベレスト水脈の一角に土地の購入が決定し、ボーリング調査が始まると思う。ネパール日本大使館とJICAからの指導も受けている

「今後どうしていきたいのか。」

石岡 ネパール人は大変真面目で、日本に対して畏敬の念を持っているので親しみやすい。

現地でネパール人に日本語と建築用語を覚えてもらい、県内の建設関連業者にネパールの若者を就労させたい。建設技術を身に付けてから帰国する。帰国した若者が建設業で働き、ネパールの復興に役立てることが出来れば嬉しい。

現在は働く受け皿がない。建設業の方には就労について応援をしてほしい。

地震からの復興に役立ちたい

料品などの共同支援をした。当社の従業員も募金活動を行い約130万円を集めるとともに、現地へ食料を届けた。ネパール・日本友好協会の日本事務局も大月市内の紅富士太鼓内に設置している。

これらの成果が認めら



ネパール訪問団は、富士山五合目で清掃活動を行った